

早稲田大会のセッション変更（地質学会 News 誌1月号記事参照）について事後承認された。また早稲田大会実行委員会提案のシンポジウム1件については承認されたが、執行理事会提案の2件については、早急に執行理事会で検討を進め、理事会でメール審議する。

大会の開催方法（口頭発表対面、ポスター発表e-poster、懇親会実施しない、表彰・顕彰式は現地実施）と巡検実施に向けてのルール・参加者への依頼事項について説明が行われ、承認された。ただし感染状況によっては完全オンライン開催など今後も変更がありうる。また、講演、巡検のキャンセルポリシー、講演取り消しの取り扱いについては引き続き詳細を検討する。

6. 学会活動におけるダイバーシティ&インクルージョン意識の啓発+キャリア支援事業の提案（ジェンダー・ダイバーシティ委員会堀委員長）

学会内でのダイバーシティ推進のため、2022年度以降の学術大会について、学術大会セッションへのEDI（Equality, Diversity and Inclusion）ロゴマーク付与（世話人申告制）と、地質分野新規参入「若手」研究者支援のためのECS（Early Career Scientists）ロゴマーク付与（自己申告制）が提案され、承認された。

7. 学会活性化に関わる会費等の変更と関連規則（定款、運営規則）の変更（佐々木副会長）

学会HP会員ページで2月15日に提案された「学会活性化に関わる会費などの変更についてのご提案」についてあらためて説明があり、承認された。なお定款および運営規則変更の承認については総会議案となる。

8. 表彰制度の見直しと関連規則（運営規則、各賞選考規則、各賞選考委員会規則）の変更（磯崎会長、中澤常務理事）

表彰制度見直し（2021年度第4回理事会承認済）に伴う運営規則および各賞選考規則、各賞選考委員会規則の変更について承認された。

9. 研究奨励金支給規則案（中澤常務理事）

野外地質学に関する若手育成事業のひとつである研究奨励金制度発足について、支給規則案が示された。支給対象、支給方法、会計報告などについて意見があがった。規則の細かな点については継続審議とする。

10. 2021年度事業実施概要（磯崎会長）

2021年度事業についての実績概要について説明がなされ、承認された。

11. 2022年度事業計画（磯崎会長）

2022年度の事業計画骨子案について説明がなされ、承認された。

12. 2021年度決算概算（緒方理事）

2021年度決算について説明がなされ、承認された。オンライン学術大会および普及事業関係（ショートコース受講料、キャリアビジョン誌掲載料）の増収により、収入全体は前年度よりやや増加し、最終的には黒字となっ

た。

13. 2022年度予算案（緒方理事）

2021年度予算案について説明がなされ、決算概算案、本予算案とともに承認された。

14. 総会議案の決定（中澤常務理事）

6/11（土）の総会議案について提案がなされ、承認された。

監事報告

1. 岩部監事より以下のコメントがあった。

早稲田大会の開催方法について状況に応じた柔軟な対応が出来るよう、引き続き検討をお願いしたい。また、業務の電子化・効率化については、支部・専門部会活動や選挙業務においては検討余地があるのではないかと。

2. 山本監事より以下のコメントがあった。

韓国IGC37における巡検への協力については、このままの状態であれば、残念ではあるが地質学会としては協力できないのではないかと、日韓の政治問題に関わることはできるだけ避けるようにしてほしい。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年4月28日

理事：議長 山口飛鳥
理事：副議長 納谷友規
代表理事：会長 磯崎行雄
理事：副会長 佐々木和彦
理事：副会長 平田大二
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名（省略）

一般社団法人日本地質学会 2022年度第1回理事会議事録

日時：2022年6月11日（土）16：00～17：20

【WEB会議形式】

出席役員 理事（43名）：青矢陸月・芦 寿一郎・天野一男・磯崎行雄・保坂（内尾）優子・内野隆之・大友幸子・緒方信一・岡田 誠・尾上哲治・笠間友博・加藤猛士・狩野彰宏・神谷奈々・亀田純・亀高正男・本郷（川村）紀子・平出（黒柳）あずみ・桑野太輔・小松原純子・小宮 剛・斎藤 真・坂口有人・佐々木和彦・沢田 健・菅沼悠介・杉田律子・高嶋礼詩・中澤 努・西 弘嗣・野田篤・星 博幸・細卓卓志・保柳康一・榊原（堀）利栄・松田達生・松田博貴・三田村宗樹・矢島道子・矢部 淳・山口飛鳥・山路 敦・山本啓司 監事（2名）：岩部良子・山本正司

事務局（1名）：澤木寿子

欠席役員 理事（7名）：大橋聖和・北村有迅・清川昌一・下岡和也・高野 修・道林克禎・辻森 樹

・成立要件：理事総数50名の過半数25名 本日の出席者43名で本理事会は成立。

・議決：出席者の過半数22名

・中澤前年度常務理事により開会。事務局より出席者数の確認を行った。

審議事項

1. 理事会議長・副議長の選出

中澤理事より、議長として芦寿一郎理事、副議長として小松原純子理事が推薦され承認された。

2. 会長＝代表理事、副会長の選出

候補者の所信表明及び会員による意向投票の結果を鑑みて、下記の会長及び副会長が選出された。

会長＝代表理事：岡田 誠、副会長：杉田律子、星 博幸

3. 執行理事の選出、部会長の選出

岡田会長より、新執行理事と所属事業部会の提案があった。審議の結果、原案通り選出された。

常務理事：中澤 努、副常務理事：緒方信一、運営財政部会：亀高正男*、加藤猛士、学術研究部会：辻森 樹*、尾上哲治、高嶋礼詩、山口飛鳥、広報部会：内尾優子*、松田達生、編集出版部会：狩野彰宏*、小宮 剛、社会貢献部会：坂口有人*、矢部 淳、内野隆之（*印は部会長）

この後、新理事会メンバーの紹介があった。

報告事項

1. 国際交流

前会長の磯崎理事より、2024年に韓国釜山で開催予定のIGCにおいて韓国側が計画している「竹島」巡検及び「日本海」呼称問題について、昨年9月より韓国側へ再考を強く要請していることが報告された。問題解決のため話し合いの場を持つことを韓国側へ提案してきたが韓国側の反応は鈍く、十分な話し合いができなかったため、3月のIUGS定例会合において日本側（日本学術会議地球科学部門代表委員）から本件について懸念が表明された。その後、日韓関係者の会合が2回開催されたが解決には至らず、6月中に改めて会合が予定されている。本件は、昨年秋より開催援助の窓口となっていた日本地質学会が単独で対応していたが、問題の重要性を考慮して、5月以降は国内の他学会および関係機関と連携し対応していることが報告された。

2. 行事（早稲田大会）

前行事委員長の星副会長より早稲田大会の準備状況について報告があった。

大会は早稲田大学14.15号館にて9月4-6日に対面で開催予定、ポスター発表はオンライン（e-poster）とし9/10,11、巡検は9/2,3及び9/7,8に開催予定であることが報告された。

また今回は参加費と発表料を分離し、院生・シニア会員の参加費を大幅に引き下げる予定であるので、周囲へ参加のお声がけにご協力いただきたいとのこと。なお新型コロナウイルスが6月末で状況に大きな変化がなければそのまま対面開催として準備をすすめる。7月以降も必要に応じて開催形態の再考を行う。

これに対し、最近では学生もオンラインでの発表に慣れてきており現地へ足を運ぶメリットを説明できるようにするとよい、対面の口頭発表とオンラインポスター発表の日程を切り離すと参加者が少なくなる可能性がある、ポスター発表については対面会場においてフラッシュトークを設けてはどうか、などの意見が出された。今後行事委員会を中心にさまざまな可能性を検討していくことになった。

監事報告

岩部監事より以下のコメントがあった。

早稲田大会の開催について活発な議論が行われ、たいへん良いことと思う。総会でも話題に挙がった代議員の人数構成等の問題については今後は是非議論をしていただきたい。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長、副議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年6月20日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長：芦 寿一郎
理事会副議長：小松原純子
前任代表理事：磯崎行雄
代表理事：会長 岡田 誠
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名（省略）

一般社団法人日本地質学会 2021年度第11回執行理事会議事録

日程：2022年4月9日（土）10:00～13:00

【WEB会議】

出席：磯崎行雄・佐々木和彦・平田大二・中澤 努・岡田 誠・ウォリス サイモン・大藤 茂・緒方信一・狩野彰宏・亀高正男・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・星 博幸・松田達生・矢部 淳

欠席：なし

事務局 澤木

*定足数（過半数：9）に対し、17の出席

*前回議事録（21-10回）確認

報告事項

1. 全体的報告

・2022年度の科研費申請は120万円で採択さ

れた。

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>

・第13回（令和4年度）日本学術振興会育志賞候補者推薦依頼（学会締切：5/13）

・2022年度藤原セミナー募集開始時期延期の連絡：例年4-7月で募集をおこなっているが、コロナ感染状況を鑑みて募集開始時期を2022年は9月まで延期する。

・産業技術総合研究所地質調査総合センター令和4年度体制のご連絡（センター長：中尾信典氏ほか）

・一般社団法人資源・素材学会より新役員就任のご連絡（会長：朝日 弘氏ほか）

・地学団体研究会より声明「ロシアによるウクライナ侵攻に強く抗議する」（2022年3月22日付）の送付があった。

・令和4年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞の受賞決定通知があった。日本地質学会推薦「防災減災から地域振興につながる地質情報の普及啓発」（斎藤 眞会員ほか3名）。

<会員>

1. 今月の入会者（9名）

正（院生割）会員（8名）：二村康平・竹林知大・谷元瞭太・夏目 樹・山川桃佳・松山和樹・新山桃乃・福井堂子

正（学部割）会員（1名）：佐藤瑠晟

2. 今月の退会者

2021年度末退会者：91名、除籍者：62名

3. 今月の逝去者（なし）

4. 2022年3月末会員数

賛助：27、名誉：38、正会員：3142〔正3021、院割113、学部割8〕合計3207（昨年比-77）

5. 2022年度50年会員顕彰者（44名）

池田保夫・石井久夫・伊藤谷生・井上正澄・今岡照喜・宇野泰光・大竹敏則・大橋俊夫・香川重善・狩野謙一・栗田光雄・小出和男・河野忠臣・小林武彦・小宮 学・紺谷吉弘・近藤直門・柴田秀道・白石和行・鈴木達郎・須藤 茂・傍島武師・田北 廣・津村善博・徳橋秀一・中屋志津男・成尾英仁・西田高久・西村 昭・西脇二一・長谷川四郎・林隆夫・原田憲一・東野外志男・平社定夫・牧本 博・松本 良・丸山茂徳・宮城晴耕・山崎晴雄・山崎安正・湯浅真人・吉田克史・吉田光廣

<会計>

・男女共同参画学協会連絡会第20期の分担金請求10,000円があった（地質学会オブザーバー学協会会員）。

<その他>

・クラウドシステムの状況：事務局で管理画面のテスト中。5月中旬に運用開始予定。

3. 広報部会（坂口・小宮）

1) 広報委員会（坂口）

特になし

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1) 行事委員会（星）

・2023年（近畿支部担当、会場：京都大学）大会の実行委員会メンバーを改めて確認した（委員長：山路 敦（京都大）、事務局長：佐藤活志（京都大）、巡検委員長：三田村宗樹（大阪市大）、巡検案内書編集委員長：里口保文（琵琶博）。また2022年9月までに巡検コース案を決定していただく。その他の詳細についても近畿支部およびLOCと相談して準備を進める。

・2024年（東北支部担当）大会は、山形大学小白川キャンパスで実施する。実行委員会委員長：伴 雅雄（山形大）、事務局長：本山 功（山形大）、巡検委員長：加々島慎一（山形大）、巡検案内書編集委員長：山崎誠（秋田大）。

2) 専門部会連絡委員会（辻森）

・理事会報告の確認

3) 国際交流委員会（ウォリス）

・3月22日に2024 IGC37巡検の問題については韓国側と話し合ったが、進展はなかった。韓国側は日本での巡検は実施しないという可能性も示唆している。

・ロシア学長連合が、ロシア大統領支持声明を出したことを背景に、EGUではロシア機関経由の支払いを受け付けないことを決めた。すでに受け取った参加費はウクライナ援助のために寄付することとなった。JpGUでは、年大会へ参加する人はJpGU leadershipが出したウクライナに関する声明に賛同することを意味すると説明した上で、従来通り国籍や所属機関に関係なく参加を認める予定。

4) 地質標準化委員会（辻森）

特になし

5) 選挙管理委員会（中澤）

・理事会報告の確認

5. 編集出版部会（大藤・狩野）

1) 地質学雑誌編集委員会（大藤）

(1) 編集状況報告（2022年4月7日現在）

・2022年投稿論文：30〔内訳〕論説12（和文11、英1）、総説4（和文4）、ノート1（和文1）、レター5（和文4、英1）、フォト1（和文1）、巡検案内書7（昨年比+20）

査読中：42、受理済み：6

・128巻：公開済み4、入稿・校正中6、

2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

・理事会報告の確認

3) 企画出版委員会（小宮）

特になし

6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）

1) 地学教育委員会（高嶋）

・理事会報告の確認

2) 地質技術者教育委員会（佐々木）

特になし

3) 生涯教育委員会（矢部）

・理事会報告の確認

4) 地震火山地質こどもサマースクール（松田）（←審議事項へ）

5) 地質の日（矢部）

・理事会報告の確認

7. その他執行理事会の下に設置される委員会